

男 女 共同参画

あすてっぴ



2007べっぴ男女共同参画フォーラム



男女共同参画週間街頭キャンペーン

誰もが自分らしく 輝くために～



女性に対する暴力をなくすキャンペーン



「あすてっぴ」…「あす」は明日と英語で私たちを表す us を意味し、「ステップ」は自分らしく自分の足取りで生きて行こうという意味を込めています。

発行：別府市政策推進課 〒874-8511 別府市上野口町1番15号 編集：男女共同参画市民編集委員
0977-21-1122 メール pco-pf@city.beppu.oita.jp 男女共同参画の推進について、ご意見ご質問をお寄せください。

男女共同参画川柳「最近はおーいお茶から おーいお茶だよ」「僕作る人 私食べる人 時々一緒に遊ぶ人」
※男女共同参画に関して感じたこと、思ったことを川柳にしてみませんか？作品は上記までお寄せください。

別府市内で活躍するお二人に伺いました。

“どげんかせんといかん”

別府宵酔女まつり第3回実行委員長
出田 道子さんに聞きました



Q 宵酔女まつりを始めようと思ったきっかけは？

景気が低迷している昨今、暇だというだけで自分たちは何かしているのか、せっかくの温泉街の良い所が活かされていないのではないかと、「どげんかせんといかん」と思ったのです。地元で働いている女性たちの横の繋がりを強め、共通目的を持ちたいと思ったことも大きなきっかけです。

Q 具体的な取り組みは？

初めは5人でした。まず、何をやるにも資金が必要です。目標予算をたて、作成したナイトマップをもとに、各お店やお客の方に趣旨を説明しながら、寄付のお願いに回りました。県や別府まつり協会などにも協力をお願いしました。それまで知らなかったお隣や向かいの人など、同業者とも商売も譲り合い、女性ばかりで手を繋ぎました。また、本音会・市職労・企業の方等、男性の方々やご来店のお客さんたちの厚いご好意や御神輿や衣装等に多大な支援も頂いており、今は感謝の気持ちでいっぱいです。現在は、役員も交代しながら、会がみんなのものになるよう工夫しています。

Q 今年のお祭りはどうでしたか？

今年で4回目ですが、御神輿を担ぐ人・芸者や花魁になる人、仮装ダンスコンテストと、回を重ねるごとに仲間の意識が強まり、祭の存在も広まってきたようです。県内外からの賛助出演もあり、祭を盛り上げてくれます。今年は、東京の江戸消防記念会、博多から中洲の国廣女御輿、竹田市の太鼓のグループ、御神楽、鶴崎おどりの出演で、観客の皆様にも大いに楽しんでいただきました。特に今年は、第1回アジア・太平洋水サミットの協賛行事ということもあり、海外からのお客さんの姿もありました。

Q このお祭り以外に活動はしていますか？

毎月第3水曜日の午後1時に「3・水・1」を合い言葉に、商工会議所・料飲組合・老人会と一緒に清掃活動を行っています。今後は、「宵酔女まつり」が市の活性化の一端を担う事ができるようにもっとPRしていきたいと思っています。

～あなたの周りで頑張っている人を教えてください～

“チャレンジしなきゃ始まらない”

亀の井バスの女性運転手 竹村 由美子さん(47歳)に聞きました

Q どうしてバスの運転手になろうと思ったのですか？

10年前、正採用の仕事を目指し資格を取ろうと職業訓練校に行きました。従弟からの「せっかく取るなら大型2種にしたら？」というアドバイスで大型2種の免許を取り、バス会社を受けました。「免許はあるけど経験がなくてもいいのだろうか」と思いましたが採用されました。また、「こんな大きな車運転できるのかな？」と心配もありましたが、「チャレンジしなきゃ始まらない」と覚悟し、2週間ほどの練習(指導)で現場での仕事を始めました。

Q いつも心がけていることは？

お客様の安全第一です。道が悪い所でもお客様を揺らさないようにクラッチやブレーキ等の操作に注意をしています。運転技術などで「やっぱり女やなあ」と言われたいはありませんからね。でも、お客様から「接し方が優しい」とか「運転が丁寧」と言われることもありますよ。時間を見つけては、冬場に備えてチェーンを付ける練習をしています。

Q 仕事と家事との両立は？

貸し切りバスに8年ほど乗っていましたが、泊まりもあり子どもが気になりました。その頃は子どもが小学生と中学生で夫が手伝ってはくれましたが、家事をする時間がなく大変でした。休日は週に1～2日ありますが、仕事柄、シーズン中は特に忙しく十分に取れないこともありますし、拘束時間も早朝から夜までと長いです。しかし、朝食やお弁当も自分で作って出勤していました。買って食べさせることもできますが、それでは働いている意味がありません。たいした料理ではありませんが、料理だけは必ず自分で作りました。



Q 伝えたいことは？

小さい子どもたちを乗せることもあります。子どもたちが私の運転を見て憧れてくれたらいいなあと思います。初めは、女性の中でも特に小柄な私で大丈夫かなと思いましたが、十分できます。女性で運転の好きな人や大型車を運転したいと思っている人に、こういう仕事がある事を知ってもらい、チャレンジしてもらいたいですね。次の人が育って欲しいと思います。私が退職するまでに5人くらいは…。

男女共同参画ミニ講座

1 男女共同参画ってなあに？

簡単！というと、世の中には、男性と女性がいるんだから、お互いに助け合って、一緒に暮らしやすい街づくりをしていこうということだよ。

2 今、そうじゃないの？

まだまだ、男女共同参画社会とはいえない部分もあるわね。例えば、国や県・市の重要なことを決める議員さんは選挙で選ばれているけど、ほとんどが男性ということからも分かるでしょう。

3 そういえば、市内の自治委員さんもほとんど男性ばかりだわ。どうしてかな？

難しい問題だけど、「重要なことを考えたり、決定したりする場合は男性」で、女性は「何も言わなくていい」という意識を持っている人が、まだまだ、たくさんいるってことかな。

4 意識を変えればいってことね。

それが、この取り組みの第一歩なの。でも、一口に意識を変えるといっても、長い歴史の中で作られてきたものだから、すぐに変えるのは難しい問題ね。それで、行政や団体などが、一人ひとりの意識を変えるために一生懸命、地道にいろいろな活動に取り組んでいるわけなのよ。

5 じゃあ、僕も、家庭の中で、男女共同参画をしなきゃね。

そうそう、家族でよく話し合っって、役割分担することが大切だね。

9月22日に開催された男女共同参画フォーラムでは、市内の小学・中学・高校生の標語コンクール入選作品の表彰と、今話題の、日本初の女流落語家「露の都」さんの落語と講演が行われました。

元気の出る講演「夢に向かって、落語に生きる」そして落語



世はお笑いブーム。若い人たちの間でも支持率の高い落語は、NHKの朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」でも女流落語家の話が大変好評とか〜。

今年度の男女共同参画フォーラムの講演会は、日本で初めての女流落語家「露の都師匠」の講演と落語が行われました。

露の都さんは、なぜ落語家をめざしたのか、高校生時代の素人名人会のエピソード、露の五郎師匠入門までの奮闘、入門して3年間の内弟子生活、男社会と言われる落語界で草分けの女流落語家として、また、結婚・離婚・再婚、そして6人の子育てなど、私生活での闘いぶりを笑いとお話いただき、明るく元気に生き抜いてきた姿を赤裸々にお話いただきました。

「自分はこうしたい、何かになりたいという強い気持ちさえあれば必ず道は拓ける」これが都師匠の情念！

日本の伝統芸能である落語界は男性社会で、女性の進出は大変困難であり、その中で、夢を追い続け、何事があっても逃げずに正面から取り組み、今では、日本で十数人の女流落語家の先頭に立たれています。

自分の人生は、他人が決めるものではなく、まして性別で決められものではありません。自分の夢や能力が活かされる社会にするためには、一人ひとりの考え方、正しい判断力が必要です。別府市では、これからも分かりやすい男女共同参画の啓発のため、講演会や映画鑑賞会などを開催していきます。

● ● ● 編集後記 ● ● ●

編集に初めて参加し、いろいろな方々のお話を聞き、相談しながら作り上げていく楽しさを味わいました。男だから女だからではなく、誰もが協力し支え合っている社会であって欲しいというのが私たちの願いです。 <市民編集委員/加藤三智子・加藤正子> ここで、こばなしを一席！

こばなし『耳の遠い老夫婦の会話』

爺 「おい婆さん。婆さん！……聞こえんなあ、おい、婆さん」
 婆 「何やいなじいさん」
 爺 「今、表通ったんは裏の源さんと違うか」
 婆 「えー？」
 爺 「今、表通ったんは裏の源さんと違うかっちゅうねん」
 婆 「何言うてんねんな、今通ったんは裏の源さんやがな」
 爺 「ああそうか、わいまた裏の源さんかと思た」

平成19年度男女共同参画標語コンクール入選作品

小学生1年生～3年生部門

最優秀賞	楽しいな お父さんとする 皿洗い	青山小3年 中島 裕紀乃
入選	男の子 女の子 心はいっしょ みんな友だち	緑丘小2年 衛藤 遥菜
	妹と ぼくて いつもね さらあらい	西小3年 亀井 元渡
	だんじよで おにごっこする 手をつなぎ	鶴見小3年 幸徳 七虹

中学生部門

最優秀賞	つくろうよ 男女の意見が 通るまち	鶴見台中1年 登田 大智
入選	男女とも 助け支えて 創る社会	山の手小2年 加藤 大樹
	湯の街に 響け男女の 活きた声	鶴見台中3年 小野 麻衣子
	男女とも 認めあったら いい別府	青山中1年 水野 滉

小学生4年生～6年生部門

最優秀賞	おたがいに 持ち味生かして 助け合おう	上人小5年 平松 雅崇
入選	なくそうよ 男女・職業の 違いをね	南小6年 加来 健志郎
	男女とも 一緒にやれば がんばれる	北小6年 桑原 千穂
	適材適所で 男女平等	青山小5年 山本 彩未

高校生部門

最優秀賞	違うから あなたと私 支え合う	鶴見丘2年 和泉 美紗貴
入選	認め合おう 「おれが」「私が」 言うまえに	溝部学園3年 吉田 恵子
	性別の 壁をこえた 街づくり	青山1年 松田 侑
	やめようよ 性別で決める かんがえ方	羽室台2年 富松 いずみ